

最後に

- 発達障害についての理解が重要。

今回の研修では統合失調症の診断をもつ方々と何日も一緒に活動することができたり、学習会へ参加することで、病気についての新しい知見を得ることができた。しかし、発達障害と統合失調症については、専門家の間でも意見が異なっているとの想いを深めた12日間であった。

平成19年の特別支援教育法の設置により教育分野においては発達障害への理解が深まり、支援も年々増えてきている。しかし、福祉分野における理解はまだまだ足りないと感じている。今後のアウトリーチの研修においても、発達障害の理解のための研修の場を多く用意していただけることを願う。

アウトリーチ研修

平成25年9月16日～9月27日



親と離れて人となる
はぐれ雲実地研修

非営利特定法人
信州サポート事業和実塾

はぐれ雲



04040 - 140301



稲刈り



アウトリーチ実地研修

- ▶ はぐれ雲は、富山県大沢野万願寺にある合宿型の若者支援施設です。
- ▶ 入寮者は、不登校、引きこもり、ニート、非行などで社会に少しミスマッチな若者が対象です。
- ▶ 今回のアウトリーチ研修では、家に帰宅して学校に登校しようとしたが、また再び家に引きこもり、不登校になってしまった中学2年生をアウトリーチして、迎えに行くという実地研修をさせていただきました。

親と離れて暮らす

- ・ 親と離れて暮らすことで、自立心がめばえ、自分自身の生き方を自分で探していく。
- ・ また、親も子と離れて、自身の生活を取り戻し、これまでの生活を見つめ直すいい期会になる。

規則正しい生活



- ▶ はぐれ雲では、朝6：30分に起床、寮の前の道をまっすぐ歩き、一つ目の交差点で折り返し帰ってくる。理事長いわく、歩く距離は問題ではない。ようは、決まった時間に起きることが大切と話す。

体力づくり



農業も、レクリエーションも大切な体力づくり、皆で力を合わせ活動している。

ビーチバレー



もうひとつの事業

- ▶ はぐれ雲は、開業以来稲作農業に取り組んでいる。減農薬のおいしいお米を作り、口コミで広がった顧客に一袋々、寮生が計りにかけ袋づめしたお米を、この時期毎日出荷している。
- ▶ お米の袋は30キロあり、それをトラックに積む作業は、今まで身体をあまり動かしたことのない若者には、そうとうきつい作業である。ただ、入寮当初の青白い顔にくらべると、みなさん日焼けをして精悍な顔つきに変貌していてとても頼もしい。

家族との交流



はぐれ雲では、三ヶ月に一度、家族との交流会を行い、子どもの近況報告と、親同士の情報交換を行っている。

アウトリーチ訪問支援

訪問先の若者は中学2年生のAくん

- ◆ 1学期の5月ごろに部活の顧問から指摘を受けそれにより不登校がつづき、両親から相談を受け6月からはぐれ雲に入寮する。
- ◆ 8月まで3ヶ月間入寮したが、本人が2学期から学校に行くとの約束で、帰宅する。
- ◆ その後再び学校に行けなくなり、両親より相談を受け訪問する。

訪問第一声

- ▶ 母親に対して、パソコンでアニメを見ながら、「なんで連絡したんだ!」「もう、ほっといてくれ!」「なんで俺を生んだんだ!」と何度も罵声を浴びせ続けた。
- ▶ 理事長の問いにも罵声を浴びせていたが、少し話合いをして、整理をしようとの話に折れてソファに座る。

Aくんの言い分

- ▶ ○○さん（理事長）は何もしてくれない。
- ▶ 転校させろ。（だれも知人のいない田舎の学校）
- ▶ 好きなことをやらせてもらえなかった。（パソコン購入）
- ▶ こうなったのは全部親のせいだ。

▶ 自分が情けない